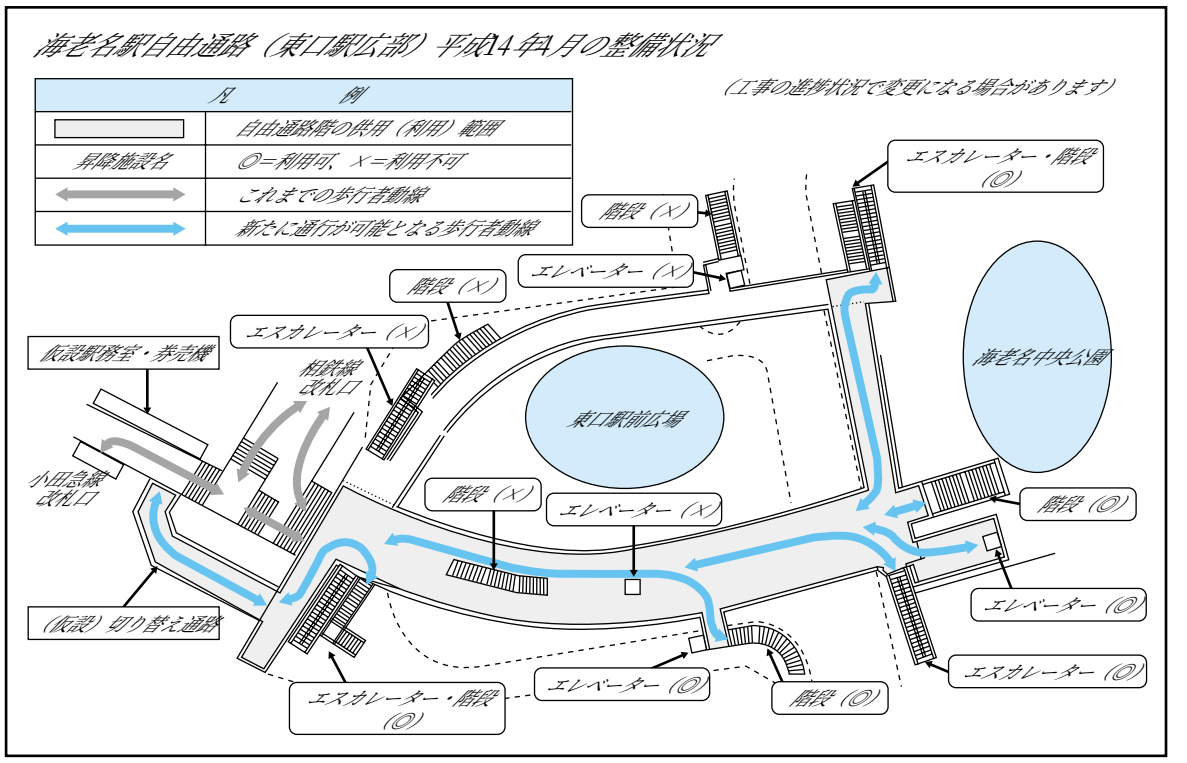
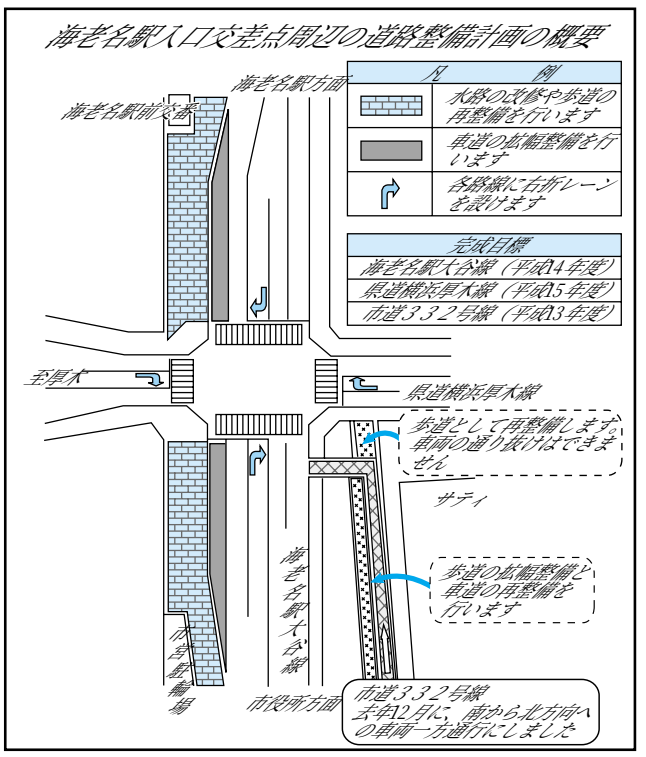
進むえびなの"顔"づくり

駅周辺地区の工事進捗状況

海老名駅大谷線と横浜厚木線の交差点付近の工事





海老名駅周辺地区では、自由通路整備、道路改良、民間開発などの工事が着々と進んでいます。今回は、工事の進捗状況をお知らせします。

4月からエスカレーター使用開始

○海老名駅自由通路整備

駅前広場部自由通路は、基礎の工事が済み、橋脚工事と桁架設（橋を架ける）工事に着手しています（一部を除く）。

また、この自由通路と小田急線海老名駅改札口をつなぐ仮設の切り替え通路は、3月末の完成を目標に工事を進めています。同時に仮の駅務室や券売機を今月中旬までに整備する予定です。

○全体の完成予定16年3月

市では、4月中に自由通路の一部利用を開始し、併せてエレベーターやエスカレーターも利用を始める予定です。これらの施設によって、中央公園などから階段を利用しないで小田急線改札口まで行けるようになります。（上図参照）

なお、駅前広場部全体の完成予定は、平成16年3月です。

大谷線に右折専用レーン増設
県と共同で改良工事も着々…

○海老名駅入口交差点周辺

海老名駅大谷線（駅から市役所方面に向かう街路）と県道横浜厚木線との交差点の改良工事を、神奈川県と共同で進めています。

市では、海老名駅大谷線に右折専用レーンを増やす工事や歩道の改良工事を進め、来年度の完成を目指しています。また、市道332号線（サティ西側の道路）の一方通行化や歩行者を中心にした道路整備を行っています（概要は、左図のとおり）。

その他、市道326号線（駅から海老名市農協前までの間）などでも、歩道や車道の工事を進めています。

○中央公園周辺地区民間開発

小田急電鉄㈱では、去年11月末、「今年4月19日（金）に複合型商業施設を全館オープンする」と発表しました。

この施設全体は、「VINAWALK（ビナ ウオーク）」と名付けられ、「丸井」、「ヴァージン・シネマズ・ジャパン」を中心に、衣料・雑貨等の物販専門店、飲食専門店、診療所や託児所などのサービス施設も設置し、約100店の出店が予定されています。

○工事期間中は、ご迷惑をおかけしますが、これまで同様、みなさんのご理解とご協力をお願いします。

問　駅周辺整備室（内692）。

●児童虐待防止の協議会発足

11月30日、全国的に後を絶たない児童虐待を防止するため、「海老名市児童虐待防止連絡協議会」が発足しました。同協議会は、虐待を未然に防ぐ「事前対応」に重点を置くことを大きな目的としています。

また、個別事例の検討を行う「ケース検討会議」を設置していることが特徴です。これは、実際に虐待が起こったときに迅速・的確に対処するためのもので、市の児童母子担当や子育て支援センター所長、市立保育園園長、厚木児童相談所の児童福祉司、海老名警察署生活安全課係長、小学校児童指導担当などで構成されています。

虐待情報の共有化、日常の見守り体制づくりの検討・実施、虐待を受けた児童のアフターケアなどに取り組むことになっています。

問　児童福祉課（内456）。

●市制30周年記念ビデオ貸し出し

市では、市制30周年を記念して制作したビデオ（VHS、22分）の貸し出しを行います。内容は、市内に残る文化や伝統、産業、人々の暮らしなどをわかりやすく紹介したもので、子どもから高齢者まで、多くの市民の方に登場いただいているのが特徴です。貸し出し期間は1週間です。希望される方は、事前に電話連絡のうえ、広報広聴課へお越しください。

問　同課（内271）。

海老名むかしばなし

第472話　郷土の里うた・里ことばなど(十)
有鹿神社とその式歌

有鹿神社は上郷と河原口の鎮守で、両域の境、相模川沿いに鎮座しますお宮である。

鳥居の右手に、高さ約二メートル・幅三十一センチの、御影石の神社の標識が建っている。正面に「相模国十三座内有鹿神社」、右側面に「延享第二（一七四五）乙丑星天」、左側面に「高座郡高座海老名郷別當海老名山総持院義奥建」、裏面に「昭和六十二年十一月三日再建、寄贈前場光雄」と刻んである。

これは「再建」とあるように二代目のものであるが、当初の標識は、延享の年紀が示すように、今から約二百六十年前の徳川吉宗時代に建てられたものであった。

鳥居をくぐるとすぐ右手に水屋があるが、その傍らに郷土かるたの

有鹿社は　式内社にて　水守る

という標柱が建っている。この「式内社」というのは、平安時代の初期の延喜五年（九〇五）に、藤原時平らが勅命によって、宮中の年中儀式・制度などの編集に着手、のち編者も交代し、ようやく延長五年（九二七）に完成した「延喜式」という書の内の神明帳に記載されている神社をいうのである。

相模国でこれに載っている神社（カッコ内傍点は社にちなむ現地名）は、寒川町宮山。付近に一之宮の地名あり）、川勾神社（二宮町山西）、比々多神社（伊勢原市三ノ宮）、前鳥神社（平塚市四之宮）、阿夫利神社（伊勢原市大山）、高部屋神社（同下糟屋）、寒田神社（松田町松田惣領）、小野神社（厚木市小野）、大庭神社（藤沢市大庭）、宇都母知神社（同打戻）、深見神社（大和市深見）、石楯尾神社（藤野町佐野川）と、わが有鹿神社の十三社だけである。それ故、前記の標識に「相模国十三座内」と表示してあるのである。

十三座内とある標識

「新編相模国風土記稿」に、「…鎮座の年代を伝へず…天平勝宝六年（七五四）八月郷土藤原広政と云者、夢兆に因て神祠を修整す…」と記載しているから、本社の創建は奈良時代の初期に遡れるかも知れない。まことに深淵な相模の古社である。

江戸時代には、海老名郷の総社としてあがめられた。海老名郷とは、上郷・河原口・中新田・社家・中野の地域をいう。「お有鹿さま」の尊称で、氏子から親しみをもって崇敬されたのはこのころであろうか。

こうした神社であったから、何時からか社の例大祭の七月十四日には、県官が幣帛使（奉献物の使者）として派遣されて来た。祭式の始まる直前、地域から選ばれた若者二名が白衣を着、烏帽子をかぶった白丁（神事で物を持ち運ぶ役）姿で、四本の脚のついた幣帛料入りの幣帛箱をさしで担ぎ県官に随行、神前に献上するという儀